

巨人の里

その昔、峰上地区には「でえっぼ」がいたそう。
巨人伝説と山丘の城跡、神様の湧水とお地蔵様たちが
お出迎える不思議な里へいらっしゃい。
参考文献：ふじかおる著「上総の民話」
中嶋清一著「富津市の民話と民謡」
うちのみさお著「みながみのむかしばなし」

高岩山のサル生息地 国天然記念
物の二ホンサルを周辺地域を含めて
15群400頭以上確認している。

大食いいち (山神社)

大田利に1升のこはんを大きな
お椀をもって食べる祭りがある。
五穀豊穡を願うこの祭り、食べる
役は3~4人で、たいていは食べ
きれないが、中にはぜんぜん食べ
てしまう大食いもいたそう。
※祭りは10月に行われる

関所の大わらし

関所の地区境 3 カ所に大きなわらしがぶら下がっ
ている。このわらしは長さ150cm、幅60cmの片方
のみで、同じワラで編んだ酒樽と木炭と杉の小枝が添
えられて、「私の村では、厄病は済み(木炭)ました。
厄病は過ぎ(杉)ました。この村にはこんな大きなわ
らしをはく大男がいる。これを見た厄病神は村の入口
から引き返していくだろうから、お酒でもてなし、新
しいわらしを覆いて帰っていただく。」という人々の
願いがこめられている。毎年2月の第1日曜日に地区
のお堂で、新しいわらしが作られ、古いものととりか
える「綱釣り(つなつり)」が行われる。

恩田やぐら

鎌倉時代に丘陵の岩
盤を掘りくぼめて造られた武士階
級の墳墓で、仏堂を兼ねている。

河童の証文 (六所神社)

昔、川を渡る馬を川へ引きずり
こんで、悪さをした河童がいた。
ある日、馬に飛びついたがしっぽ
をつかんでしまい、反対に陸に揚
げられた。怒る馬方に、河童は「こ
れからは絶対に悪さはしないから
助けてくれ。」と謝り、証文として
石の棒を渡した。河童は悪さをし
なくなり、証文は神社の木の根元
に立ててあったと伝えられている。

山静堂診療所 (主屋)

木造平屋
建て入母屋造り、棧瓦葺きの伝統
的和風建築。国登録有形文化財。

峯上城跡 (環城)

峯上城は、標高約120mの山丘を中心に築造され
た中世の山城で、武田信興によって建てられたと伝えら
れている。最高所にある環神社は、天満天神と摩利支
天が祀られ、鰐口に天文2年9月3日と記されている。
真里谷武田氏が本拠とし、里見氏と対峙したが、その
後城は里見氏の支配となり、室町末期に廃城となった。
※城跡は私有地のため、現地に入る場合は石井家に声
をかけるか、下記へ問い合わせください。

源氏水 (環神社)

源頼朝が勝利の祈願に神社を訪
れた。「このあたりには水がない」
と聞いた源頼朝は、もっていた槍
で地面を一突きした。すると見る
間に水が湧き出して池になった。
この池は、どんな日照りのときで
も、水が枯れないそう。

女でえっぼ (姥石)

その昔、谷に大女が猿たちとともに暮らしていた。
人々はこの大女をでえっぼと呼んだ。大女は大岩ほ
どの石臼で粉を挽き、団子を作って、猿たちと分け合
って食べた。ある年日照りが続き、大女が飲み水にし
ていた沼の水が減り、沼の主が「これからは他で飲ん
でくれ。」と言った。大女は「他の沼では足んねえから、
飲ましてくれ。」と頼んだが、主には断られた。怒った
大女は、命の次に大事な石臼を袖に入れ、富津から
富士へとまきぎ、走っていった。そのとき、大
女の袖が破れて石臼を谷へ落としていった。その石臼
は今も谷にあり、姥石と呼ばれている。

姥石

環の城が敵に攻められた
とき、美しい姫様が岩待につれ
られ逃げた。敵の兵につかまりそ
うになった姫は、川に身を投げた。
以来この場所を「姥石淵」と呼び、
10月の静かな夜は、川の淵から
姫の静かな夢の音が聞こえるそう。
夜わらをうたが、村では「夜わ
らを打たない」言い伝えがある。
環の城が敵に攻められたとき、わ
らを打つ音が敵に伝わり環の城が
破れてしまったためだそう。

阿夫利神社

住吉神社

紅葉の見頃

大いちょう 11月中旬
もみじ 11月下旬~12月上旬

銘水滝の不動尊

7:00~20:00

志駒不動様の霊水

問い合わせ

富津市(市外局番 0439)
商工観光課 ☎80-1291
秘書広報課 ☎80-1225
生涯学習課 ☎80-1342